

和田牧場

浜頓別町

令和元年就農

和田 英雄さん(36歳)
幸恵さん(34歳)

大学時代に町の農家で酪農体験 会社員を経て家族で牧場経営



家族で宿泊旅行も可能。
子どもと過ごす時間も
大切にしています



和田さんの就農まで

平成16年
大学時代に浜頓別の
農家で酪農実習

平成28年
会社員等を経て
浜頓別町へ移住

酪農ヘルパーとして
1年半経験を積む

令和元年12月
新規就農

関西育ちの自分が初めて浜頓別町を訪れたのは大学時代。夏の1か月間、地元の農家に住み込み、酪農という仕事を実際に体験させていただきました。その後の人生を決める大きな経験だったと思います。大学卒業後は食品関係の会社、さらに独立行政法人の「家畜改良センター」に勤務後、本格的に就農を意識して浜頓別町に拠点を移しました。

酪農ヘルパーとして経験を積みながら、浜頓別の農業担い手育成センターや農協、町の担当の方に資金面などの相談にのっていただき、令和元年に新規就農となりました。最初の3か月で50頭の分娩があり、夜は牛舎で泊まることもありましたが、町内の農場における研修で3か月間分娩に携わった経験が活かしました。軌道に乗るまで1年程要しましたが、妻の協力、専門書による勉強、近隣の新規就

農者との情報交換で何とか乗り越えることができました。地域の方もあたたかく迎えてくれました。

「酪農は休日がない」という印象があるかもしれませんが、地元の酪農ヘルパーの方にお問い合わせすることが可能なので、家族旅行にも行けます。ふたりの子どもはまだ幼いので、週末はなるべく一緒に過ごす時間の確保も意識していますね。



和田さんの経営データ(R2年)

- 乳用経産牛 / 49頭 ● 年間生乳生産量 / 458.7t
- 乳用育成牛 / 20頭 ● 経営面積 / 58.1ha



宗谷の酪農の特徴

放牧が多い

酪農には大きく分けて、牛を主に牧草地で飼う「放牧」と、牛舎で飼う「舎飼い」の2つの方式がありますが、宗谷エリアは「放牧」による酪農が比較的多く見られる地域です。緑の大地に草を食む牛たち、そんな酪農のイメージ通りの光景に出会えるのが宗谷エリアです。



全道一土地が安い

広大な経営面積を必要とする放牧主体の「草地型」酪農を可能にしている大きな要因が全道でも圧倒的な土地価格の安さ。土地取得が比較的容易なことは新規就農を考える際の大きなメリットとなります。

農地(中間)価格の推移(令和4年)	
エリア平均	32,000
全道平均	116,000
釧路地域	54,000
根室地域	49,000
[単位: 円/10a]	

※注/「中間」は収量水準や生産条件が平均的な指のことで、資料:北海道農業会議「田畑売買価格等に関する調査」

支援が充実している

研修制度や、助成金、住居の提供など、新規就農に向けてエリア内の市町村、JAによる様々な支援が用意されています。さらに新規就農希望者のみなさんを支援するために各地域が連携したネットワークも確立。未経験でもステップを踏んでいけば就農できる道筋が、宗谷エリアなら見えてきます。

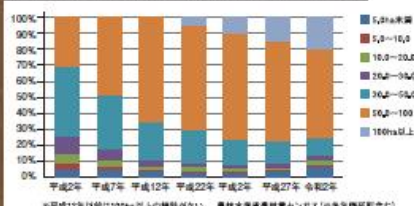
土地が安いと資金のハードルも低くなりそう



経営規模

経営耕地面積別農家数の割合は、平成2年では30ha以上50ha未満が44.0%と最も多く占めていましたが、令和2年では50ha以上が76%で最も多くなっており、規模拡大が進んでいます。(うち100ha以上は20.2%)

経営耕地面積別農家数(販売農家)の推移(割合)(宗谷)

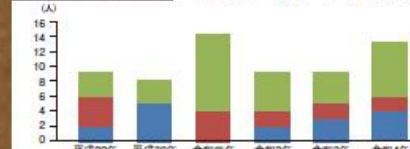


※平成12年以前の100ha以上の統計がない 農林水産省農産課センターシステム(国産牛産肉町別)

新規就農

令和4年の宗谷エリアの新規就農者数は、13人となっています。このうち最も多かったのは、農家出身者以外が就農する新規参入の7人となっています。また、農家出身者が高校や大学を出てすぐに就農する新規学卒が4人となっています。

新規就農者の推移(宗谷)



※北海道農業総合振興局調べ(令和5年)

宗谷エリア 新規就農ガイド①

就農までのステップ

適性を見極め、スキルアップと資金の調達を図り、地域との調和を大切に、着実なステップで成功する新規就農へ。各種支援制度も用意されています。

Step 1

適性を見極め

- 酪農体験
- 酪農ヘルパー



Step 2

スキルアップ・資金調達

- 酪農研修生
- 農業法人(就職)



資金について

新規就農に必要な資金の目途 宗谷エリアの場合

土地	牛舎	機械	牛	ランニングコスト
約60haで 約1,800万円	搾乳牛40頭規模で 約2,300万円 (中古)	トラクター、 牧草収穫機械などで 約400万円 (中古)	40頭で 約2,000万円	40頭規模で 年間リース料 約500万円 (土地・牛舎・牛を5年 リース事業で取得した場合)

※ランニングコストは、農場リース事業、農地保有合理化事業に係る年間リース料で、肥料代や光熱費等と酪農経営は含まれていません。



資金調達の仕方

一見大変ハードルが高く見えますが、市町村等から農業者として認められれば国・市町村(後述)・JA等からの資金面や施設面での支援を受けることができます。スタート時に酪農者の土地や施設のリースを受けることも可能です。

新規就農後の収入について

搾乳を始めたその月から固定的な収入(乳価×搾乳量)を得ることができます。きちんとした経営計画があれば、農業の中でも非常に安定的なジャンルであると言えます。

ご結婚された後 就農までの経緯は?



新規就農を希望する方にアドバイスを

裕 初めて彼の存在に気づいたのは、私が勤務する小学校の地区で行われたお祭り。終了後スタッフでもないのに、会場に残ってもくもくと最後まで後片付けを手伝っているのでも「この人は何だろう?」と不思議な印象だったことを覚えています。その後お付き合いする中で、酪農に対する思いや夢を淡々と語ってくれました。

佐 結婚してパートナーも得て、酪農ヘルパーとして実践経験を積みながら就農できる機会を待っていた感じでした。ちょうど平成から令和に変わるタイミングで、離農で牧場を整理した方がいて、ついに新規就農となりました。

裕 令和元年の10月に娘が生まれて、12月に就農。とにかく一度にいろいろな「初めて」がまとめて起こった感じです。

佐 宗谷地方は土地が安価ですし、自前で良質の草を確保できます。資金面も含めてサポートしてくれるシステムが充実しているので、不安はあるかもしれませんがスタートしてしまえば大丈夫だと思います。

裕 地域の方があたたかく迎えてくれますし、小さな子どもを育てる環境としても不便は感じていません。子育て家族でも挑戦できると思います。

「酪農については無知だったけれど夢を追いかける主人を応援」
(裕美)

実際に就農してどんな感想?

佐 就農後の1か月は毎日のように子牛が生まれていた記憶がありますね。

裕 私自身は酪農に関してほとんど知識がなかったのですが、最初は夢を追いかける彼を応援する気持ちでしたが、いまは家族全員で酪農という暮らしを楽しんでいます。娘の涼禾(すずか)はこの環境の中でこのび育て、子牛と大の仲良しなんですよ。

佐 家族ですごす時間も大切にしながら、自分たちの牧場でしっかり頑張っていきたいですね。将来的には、かつての僕のように「酪農に挑戦してみたい」という若い人たちを受け入れてみたい、と思っています。

